大好き☆出雲！

よすみちゃん

季刊

弥生の出雲王に出会える

出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第 33 号 （2019 年 4 月）

出雲弥生の森まつり2019

当館の開館記念日である4月29日を中心に開催している「出雲弥生の森まつり」は、今年で10回目を迎えます。地元の応援団体「弥生の森おおつ」などと協力して、楽しく学べるイベントを開催します。

4月28日（日）オープニング

無料 出雲商業高校書道パフォーマンス 10時～

無料 第10回記念小学生向け特別講座

「出雲王の墓－西谷墳墓群」 11時～12時

講師 渡邊 貞幸 氏（当館名誉館長・島根大学名誉教授）

弥生時代の出雲王について、小学生向けにわかりやすく解説してもらいます。親子連れや大人の方のみの参加も歓迎します。

受講者には修了記念品をプレゼントします。

無料 西谷墳墓群ガイドサービス 10時～15時

無料 火起こし体験 10時～15時

有料 まが玉・缶バッジづくり 10時～15時

ものづくり体験が大集合！ 古代体験フェスティバル 13時30分～16時

無料 復元した弥生土器でご飯を炊こう！ みよし風土記の丘ミュージアム・広島県立歴史民俗資料館

有料 まが玉ストラップづくり 八雲立つ風土記の丘

有料 和同開珎づくり 古代出雲歴史博物館

有料 プラ板づくり 荒神谷博物館

有料 まが玉消しゴムづくり 出雲弥生の森博物館

4月29日（月・祝）

無料 ライブ 【ボーカルデュオ】X＋（えくすと）

① 10時～10時30分

② 13時～13時30分

日本遺産「日が沈む聖地出雲」の応援ソングが人気です。

出雲市観光大使

無料 博物館探検隊 11時～12時

普段は見ることができない博物館の裏側を探検しよう！

無料 よすみちゃんクイズ 14時～15時

クイズに答えてグッズをゲット！

有料 喫茶コーナー 10時～15時

同時開催 史跡公園イベント 4月28日（日）・29日（月・祝）

地元にぎわいコーナー 10時～15時

有料 屋台村

・焼そば・唐揚げ など

おいしいグルメを満喫しよう！

無料 わたがしサービス

無料 野外遊びコーナー

・まてばしい飛ばしに挑戦！

・吹き矢 など

5月3日（金・祝）～5日（日・祝）

無料 キャラ探しスーパー

博物館に隠れているキャラクターを探し出そう！全部見つけると素敵なプレゼントがあるよ！

※イベント内容や開催時間は変更になる場合があります。詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

★春季企画展
「ふるさと今昔物語 その3 ―平田地域―」
【入場無料】

今回の春季企画展「ふるさと今昔物語」では、企画展に関する調査研究で新たに「発見」した史料をいくつか展示しています。

その一つが、『続日本紀』四〇巻（二十冊の冊子本）です。これらは、平田町の木綿街道にある本石橋家に伝えられたものです。

『続日本紀』は、797（延暦16）年に成立した歴史書で、奈良時代の事柄が記されています。本石橋家のものは、1657（明暦3）年に出版された版本です。

本石橋家の『続日本紀』で興味深いのは、その来歴が分かることです。「出雲国楯縫郡国富八幡宮文庫」の蔵書印が各冊にあり、元々は国富八幡宮（現在の県神社）の蔵書であったことが分かります。さらに、巻四十の巻末に墨書があり、1799（寛政11）年4月23日に、同社宮司・金築中久を発起人に、美談村の水平助や松江の小豆沢浅右衛門らが各々の家運長栄を祝い祈るため、奉納したものと分かりました。4月23日は同社遷宮の日で、これに伴うものと考えられます。

当時、出雲では出雲大社の千家俊信を中心に、日本の古典を研究する国学が普及し始めた頃で、『続日本紀』の奉納はその潮流を反映するものとして注目されます。

また、奉納された後、神門郡の古志にいた神田厚敬に貸し出されたことも分かりました。神田厚敬は1800（寛政12）年に『出雲風土記俗解抄』を書写し、それには『続日本紀』を引用した頭注が記されており、本石橋家のものを参照したようです。

こうした来歴や貸借の関係を見ると、本石橋家の『続日本紀』は近世出雲の国学の普及を考える上で、重要な史料と言えます。

それでは、国富八幡宮の『続日本紀』がなぜ本石橋家にあるのでしょうか。1881（明治14）年に出された金築春久（中久の子）の和歌集『桃廼舎和歌集』に、当時の本石橋家の当主石橋道基の名が見え、国富八幡宮の宮司家と本石橋家の交友関係がうかがえます。その関係から本が移ったとみられ、本石橋家に伝わること自体も注目すべきことなのです。（髙橋　周）

★ギャラリー展
「こしムラのレキシ ―古志遺跡群の様相―」
2月27日（水）～5月27日（月）
【入場無料】

神戸川左岸にある古志遺跡群は、下古志遺跡・古志本郷遺跡・古志遺跡などで形成され、その広さは70ha（出雲ドーム43個分）に及びます。

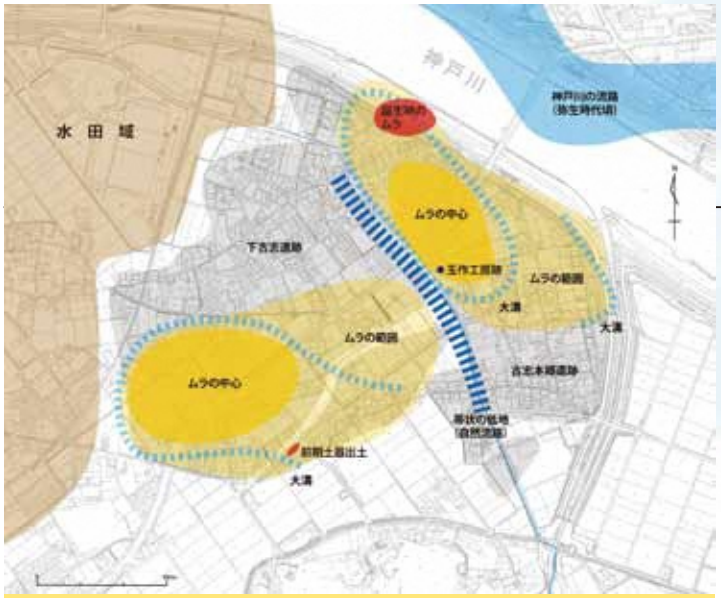
弥生時代に出現し、古墳時代には周辺に首長墓が築かれ、奈良・平安時代には山陰道に隣接していたこの遺跡群は、「こしムラ」として時代ごとに姿を変えていました。

近年、こしムラやその周辺において、県道改良や放水路建設などの大規模な開発事業が進められたことから、事前の発掘調査が集中して行われました。1990～2010（平成2～22）年度にかけて行われた調査の延べ面積は5.7ha。平成の間に、島根県内においてこれほど大規模な調査が行われたのは、ここしかありません。

その結果、弥生時代の大集落や奈良時代の役所跡が見つかるなど、出雲平野の歴史を解明する上でも画期的な成果がありました。

今回の展示では、これらの成果によって垣間見えてきたこしムラの様相を推定し、その変遷を概観します。

（三原一将）



弥生時代のこしムラの様相
（二つの集落が帯状の低地で隔てられていた）

★速報展
「肋骨」に抱かれて―平成30年度神門横穴墓群の調査から―
2月6日(水)～6月3日(月)

今回の速報展は、昨年度実施した、神門横穴墓群の発掘調査成果から、横穴墓の「肋骨」に注目した展示を行っています。

神門横穴墓群は、市内の神門町と神西沖町にまたがる真幸ヶ丘丘陵に広がる大横穴墓群です。同じく市内にある上塩冶横穴墓群（約230基）に次ぐ、約120基の数を誇っており、県内でも最大級の横穴墓群です。

今回、調査をしている第10支群（旧名　小浜山横穴墓群）は、1992（平成4）年、十間川の河川改修工事にともない、35基の横穴墓が発掘されました。

昨年度の調査（2か年計画の1年目）では、横穴墓が東側斜面に5基、西側斜面に10基の合計15基が見つかっており、そのうち西側の1基と、東側の5基の調査を行いました。

ところで、横穴の「肋骨」とは何だと思いますか？それは、横穴墓内の天井や壁に残る12㎝程度の幅の加工痕のことです。加工の痕が幾筋も平行に並んでいる状況が、あたかも「あばら骨」のように見えることから名づけられました。専門用語としては「肋骨状加工痕」ですが、略して「肋骨」と呼ばれています。

展示では、この「肋骨」横穴墓の分布を手掛かりに、ここ神門横穴墓群の特異性を浮かび上がらせます。

（原　俊二）

横穴墓内に残る「肋骨状加工痕」

★祝！重要文化財指定
「鰐淵寺文書」重要文化財へ！

3月18日、国の文化審議会は、「鰐淵寺文書」（鰐淵寺所有）を重要文化財に指定するよう答申しました。

この度指定されることになったのは、鎌倉時代から江戸時代の古文書494通で、その中には中世の古文書380通が含まれます。

内容は、寺の領地や祈祷に関するものなど多岐にわたり、朝廷や幕府、戦国大名らとの関わりを示す文書も多く残されています。中世の有力地方寺院の様子を知ることができるうえ、中世から続く出雲国の宗教史を考える上でも重要な史料として評価されました。

（景山このみ）

足利尊氏が鰐淵寺に宛てた手紙
1336（建武3）年
内容：「祈祷に励むのだぞ！」
※写真提供：東京大学史料編纂所

★日本遺産
日が沈む聖地出雲の文化財（第7回）

日本遺産「日が沈む聖地出雲」を彩る構成文化財紹介第7弾！

認定3年目の記事は「出雲日御碕灯台」からのスタートです。

日御碕といえば、断崖に立つ白亜の灯台をイメージされるのではないでしょうか。地上約44ｍの高さは日本一。外側は美保関産の森山石、内側はレンガを積み上げた二重構造で、地震に強い設計です。

1900（明治33）年から3年もの歳月をかけて建設され、今年で116年。今なお現役で航海の安全を護り続けています。文化財としての評価も高く、世界の歴史的灯台百選や国の登録有形文化財にも選ばれています。

夕暮れ時になると、広大な日本海を背景に、白い灯台が夕日色に染まる美しい光景がのぞめます。

（景山このみ）

出雲日御碕灯台

★企画展・講座のご案内

▼春季企画展
好評開催中～5月20日(月)
「ふるさと今昔物語その3
―平田地域―」

●ギャラリートーク
4月27日(土)、5月18日(土)
いずれも10時～

▼ギャラリー展
好評開催中～5月27日(月)
「こしムラのレキシ
―古代の古志遺跡群―」

●関連講座
5月6日(月・祝)
「遺跡が語るこしムラのレキシ
―古志遺跡群の様相―」
【講師】三原一将（当館）

●ギャラリートーク
4月20日(土) 10時～

▼速報展
好評開催中～6月3日(月)
「『肋骨』に抱かれて
―平成30年度神門横穴墓群
第10支群の調査から―」

▼ギャラリー展
5月29日(水)～8月26日(月)
「出雲平野の赤」（仮）

※右の展示は、いずれも観覧料、聴講料ともに無料です。

▼出雲弥生の森博物館
職員リレー講座

出雲の文化財や歴史、最新の発掘成果について、市文化財課の職員がわかりやすく解説します。

6月22日(土)
「神門横穴墓群の
調査について」（仮）
【講師】原　俊二
石原　聡
（埋蔵文化財係）

8月3日(土)
「解説　いずもの登録文化財」（仮）
【講師】景山このみ
（文化財保護係）

8月24日(土)
「出雲における弥生
～古墳時代の埋葬儀礼」（仮）
【講師】坂本豊治
（博物館学芸係）

右の講座はいずれも
●時　間　14時～16時
●会　場　たいけん学習室
●受講料　各回300円
●定　員　80名

※講座の受講には事前申し込みが必要です。電話・FAX・博物館ホームページでお申込みください。

★館長古来夢（こらむ）

まもなく「平成」が新元号に切り替わる。日本の元号は飛鳥時代の西暦645年、大化（たいか）の改新の後に定められた「大化」に始まる。その後、あったりなかったりした半世紀を経て、文武天皇5（701）年に「大宝（たいほう）」が定められた。それ以降は、南北朝時代に二つの元号が並立したことはあったが、途切れることなく元号は使い続けられてきた。

わが国での元号定着を記念すべき「大宝」だが、これにはある事件がからんでいる。「大宝」とは黄金のこと。697年、祖母の持統天皇から皇位を継いだ文武天皇の治世には日本列島各地で鉱物資源の開発が進んだが、金だけが未発見。政権中枢の一人、大伴御行（おおとものみゆき）は、701年に大和の住人・三田五瀬（みたのいつせ）を対馬（長崎県）に派遣して、金鉱山を探させた。3月21日、五瀬はみごと金を朝廷に献上することに成功。それにちなんで元号「大宝」が制定された。

二月前に亡くなっていた大伴御行には右大臣の称号が贈られ、御行の子孫や三田五瀬以下の関係者にも褒美が与えられた。ところが後に、この対馬産金は五瀬の詐欺であり、御行はまんまとたぶらかされていたことが判明した、という。そんなオチまで記録しなくても、とも思うのだが『続日本紀』は隠ぺいしていない。

それはともかく、この年の元旦、藤原宮の大極殿で催された儀式は華麗を極め、「文物の制度はここにみごと整備された」と高らかな宣言がなされた。律令も、また日本という国号も定まった。「大宝」は、日本の門出を祝う元号でもあった。

「大宝」の訓読み「おおたから」は、国民を意味する「おおみたから」とも読める。民こそ国の黄金だ、と飛鳥人が思っていたからの元号だとしたら、クールだけどなぁ。

（花谷　浩）

（発行）出雲弥生の森博物館
2019年4月
〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入館料／無料
●開館時間／9:00～17:00
（入館は16:30まで）
●休館日／火曜日
（祝日の場合は翌平日）
年末年始